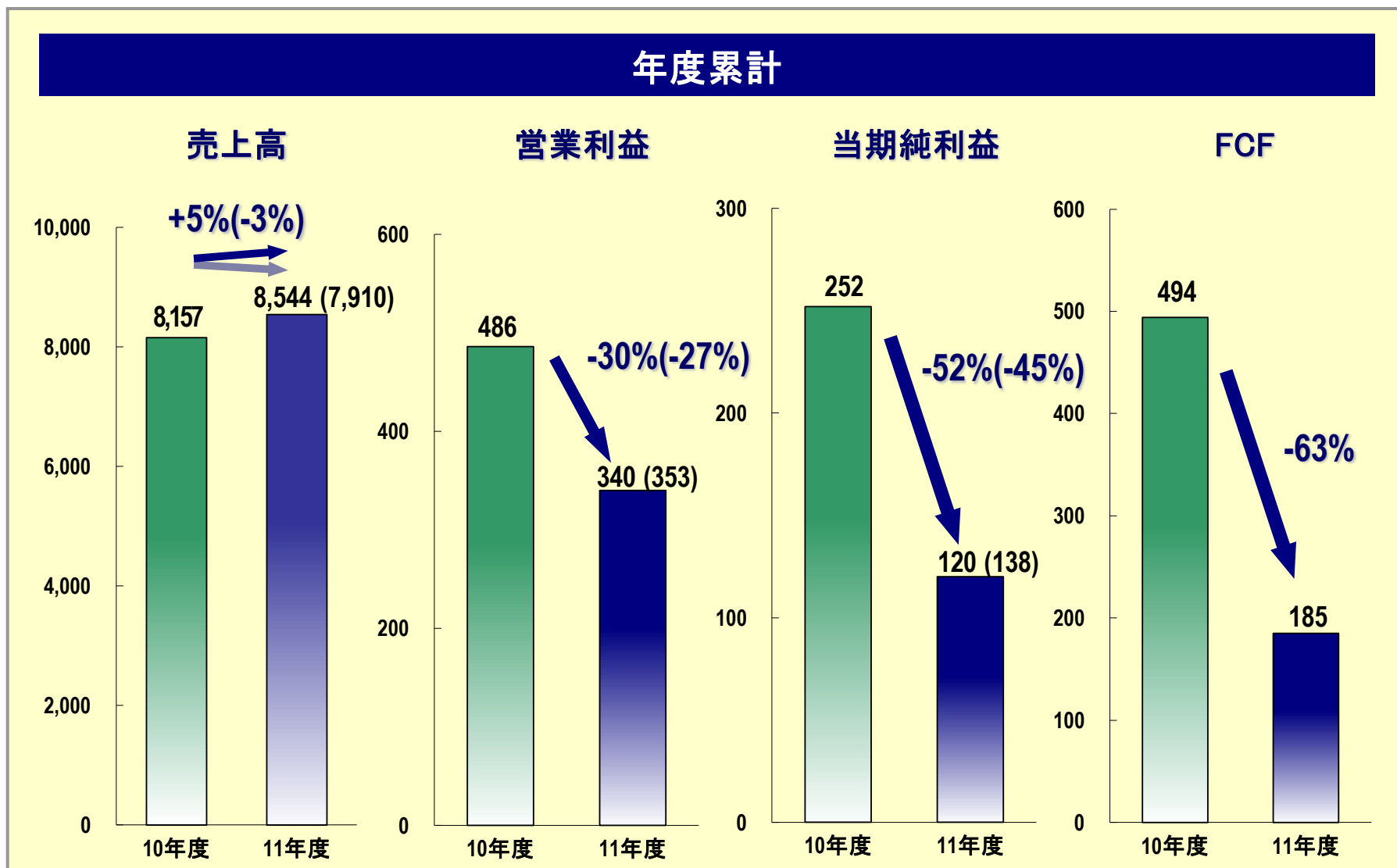

**2012年3月期 決算 及び
2013年3月期 業績見通し
説明資料**

**帝人株式会社
2012年5月9日**

2012年3月期 決算概況

(1) 2012年3月期 決算概況

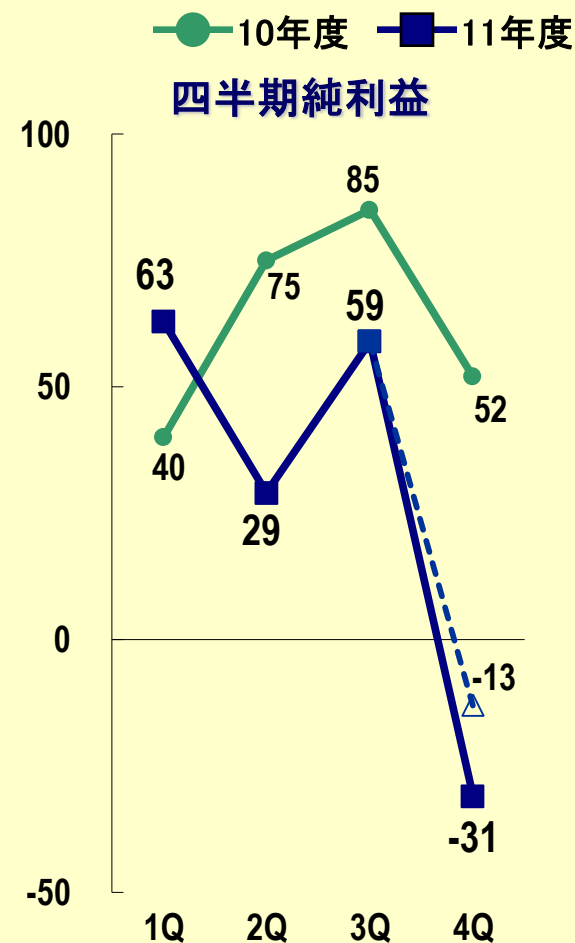
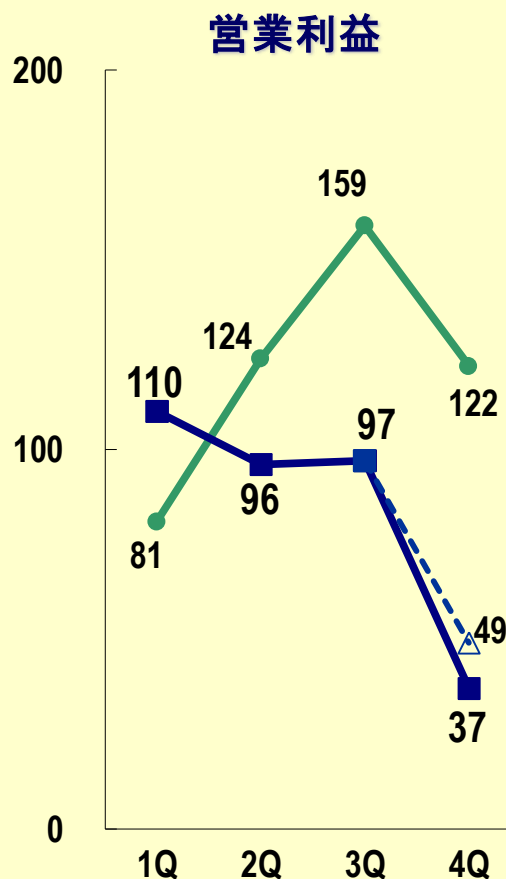
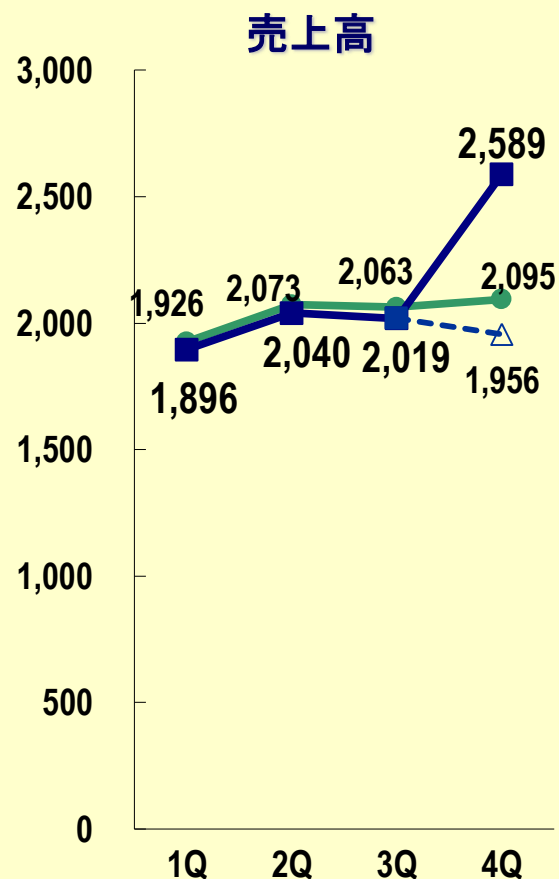
(億円)



* ()内 決算期統一影響除き

(億円)

四半期推移



* △は決算期統一影響を除いた額

◆ 経営成績

(億円)	10年度	11年度	差異
売上高	8,157	8,544	+387
営業利益	486	340	-145
<営業利益率>	6.0%	4.0%	-2.0%
営業外損益	18	2	-15
経常利益	503	343	-161
特別損益	-59	-65	-6
税金等調整前 当期純利益	445	278	-167
法人税等	162	147	-14
少数株主損益	31	11	-20
当期純利益	252	120	-132
EPS(円)	25.59	12.17	-13.42

EBITDA *1	1,050	863	-186
設備投資 *2	292	323	+30
減価償却費	564	523	-41
研究開発費	315	318	+4
FCF	494	185	-309

- 売上高：実質微減収(3%減)
 - ・決算期統一のため、一部連結子会社において15ヶ月分を算入
- 営業利益：減益
 - ・欧州債務危機、世界的なエレクトロニクス関連市場の低迷によって、化成品事業の業績が大きく悪化
 - ・自然災害による影響
 - 東日本大震災 ▲50億円
 - タイ洪水 ▲30億円
 - ・減価償却方法変更による影響 +63億円
 - ・決算期統一による影響 ▲13億円
- 経常利益：減益
 - ・持分法利益減少(63億円→53億円)

◇ PL換算レート

	10年平均	11年平均
円 / 米ドル	88	80
円 / ユーロ	116	110
米ドル / ユーロ	1.33	1.38

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出 *2: 設備投資には無形固定資産を含む

◆特別損益

(億円)	10年度	11年度	差異
固定資産売却益	14	3	-11
投資有価証券売却益	22	13	-10
関係会社株式売却益	—	7	+7
洪水関連差益	—	3	+3
その他	5	3	-2
特別利益計	41	29	-12
固定資産除売却損	6	10	+4
投資有価証券評価損	1	2	+1
貸倒引当金繰入額	9	8	-1
減損損失	18	26	+8
事業構造改善費用	10	—	-10
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	5	—	-5
震災関連費用	29	3	-25
退職給付制度改定損	—	33	+33
その他	21	12	-9
特別損失計	100	94	-6
特別損益計	-59	-65	-6

➤ 特別損益：▲65億円

・「洪水関連差益」

被災設備・在庫及び操業低下にかかる損失の一部は保険求償により相殺

・「退職給付制度改定損」

欧州子会社の年金制度変更により、退職給付会計における数理計算上の差異発現

・「減損損失」

炭素繊維 米・欧 製造設備など

◆財政状態

(億円)	11年3月末	12年3月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,615	7,621	+6	+44
自己資本	2,842	2,920	+78	+21
有利子負債	2,674	2,610	-64	+15

D/Eレシオ	0.94	0.89	-0.05
自己資本比率	37.3%	38.3%	+1.0%

➤総資産：横ばい

- ・減価償却進捗により固定資産減少
- ・売掛金等の増により流動資産増加

➤自己資本：増加

- ・当期純利益による増加

➤有利子負債：減少

- ・営業活動や設備投資の抑制等によりキャッシュ・フロー確保

◆キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動 他	現金及び 現金同等物 増減
11年度	537	-352	185	-137	48
10年度	771	-277	494	-439	55

◇BS換算レート

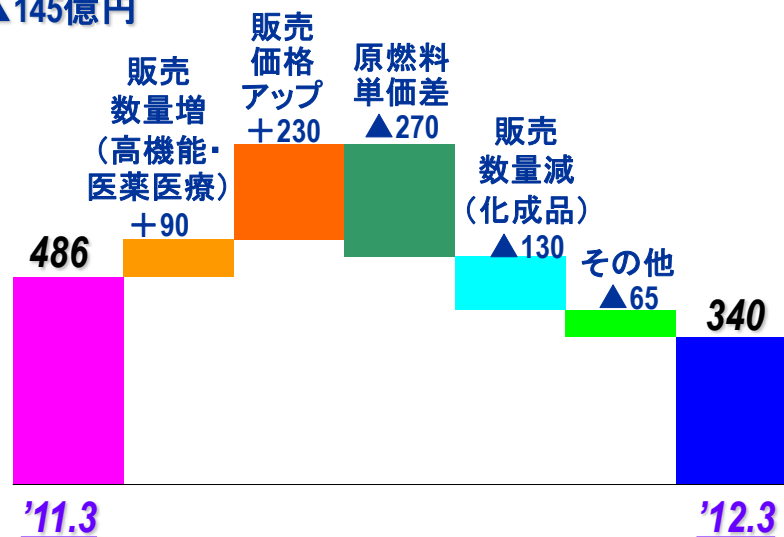
	10年 12月末	12年 3月末
円 / 米ドル	81	82
円 / ユーロ	108	110
米ドル / ユーロ	1.32	1.34

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

◇ 営業利益

▲145億円

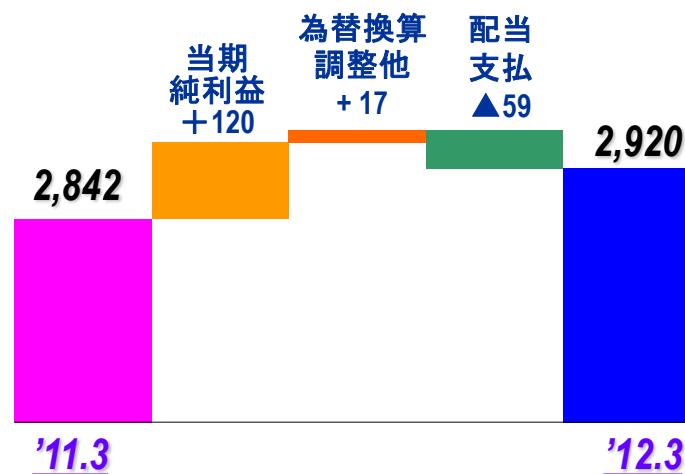
(億円)



◇ 自己資本

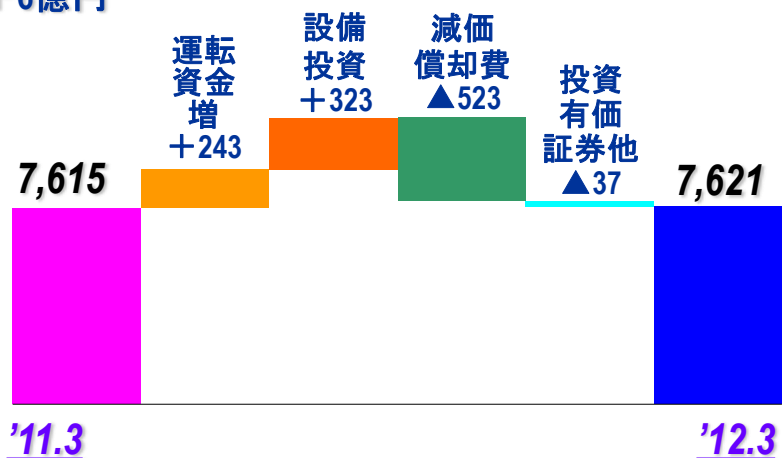
+78億円

(億円)



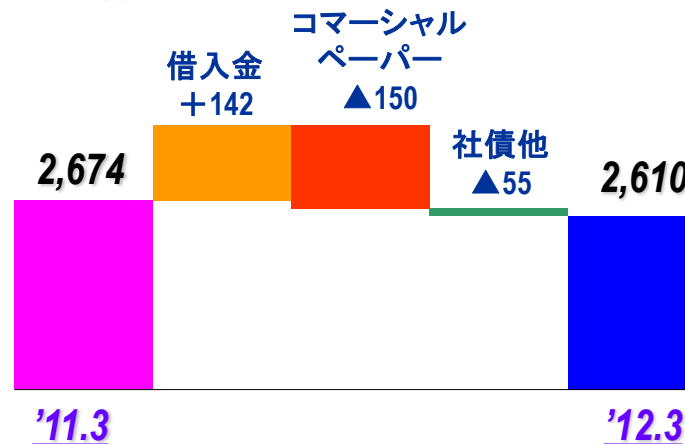
◇ 総資産

+6億円



◇ 有利子負債

▲64億円



(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前期)

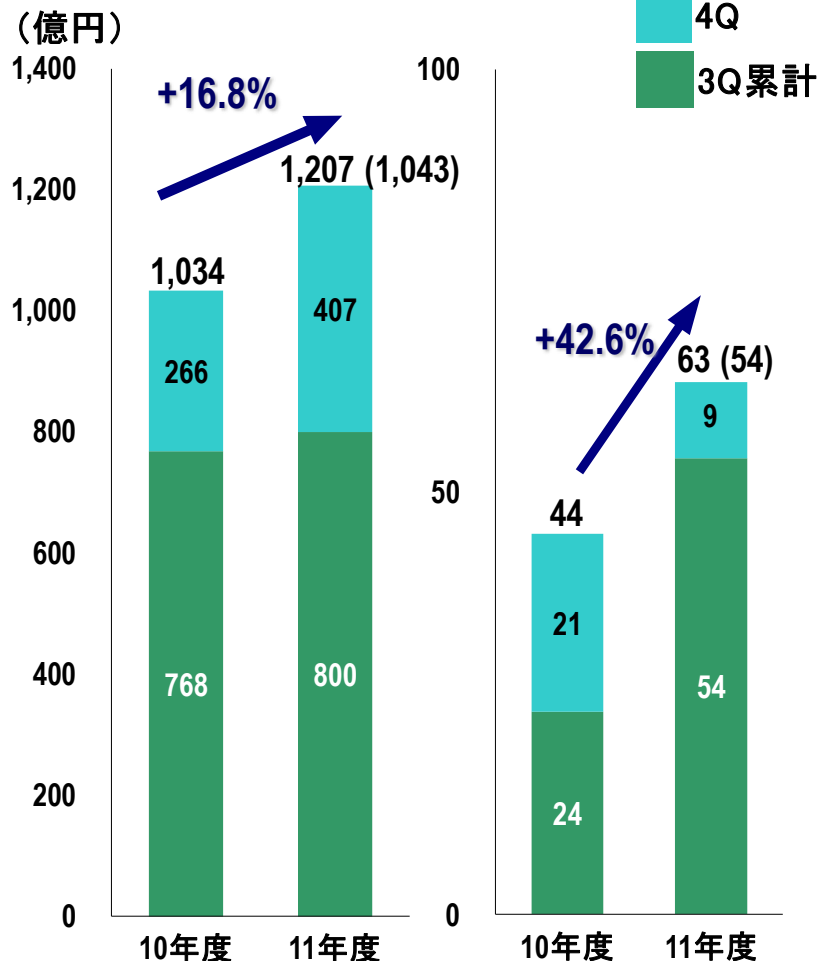
(億円)	売上高				営業利益			
	10年度	11年度	差異	増減率	10年度	11年度	差異	増減率
高機能繊維	1,034	1,207	+174	+16.8%	44	63	+19	+42.6%
ポリエステル繊維	1,035	1,099	+64	+6.2%	30	19	-11	-37.2%
化成品	2,171	2,154	-17	-0.8%	234	37	-197	-84.1%
医薬医療	1,364	1,430	+66	+4.8%	229	259	+30	+13.1%
流通・リテイル	2,169	2,246	+77	+3.5%	47	60	+13	+26.7%
計	7,773	8,136	+363	+4.7%	585	439	-147	-25.1%
その他	383	408	+24	+6.3%	31	33	+2	+7.1%
消去又は全社	—	—	—	—	-131	-131	-1	—
合計	8,157	8,544	+387	+4.7%	486	340	-145	-29.9%

決算期統一影響	—	633	—	—	—	-13	—	—
12ヶ月累計	8,157	7,910	-246	-3.0%	486	353	-133	-27.3%

① 高機能繊維事業：売上高 実質横ばい、増益

売上高

営業利益



(億円)	10年度	11年度	差異	増減率
売上高	1,034	1,207	+174	+16.8%
営業利益	44	63	+19	+42.6%

◆ 事業概況・実施アクション

◇ アラミド繊維：

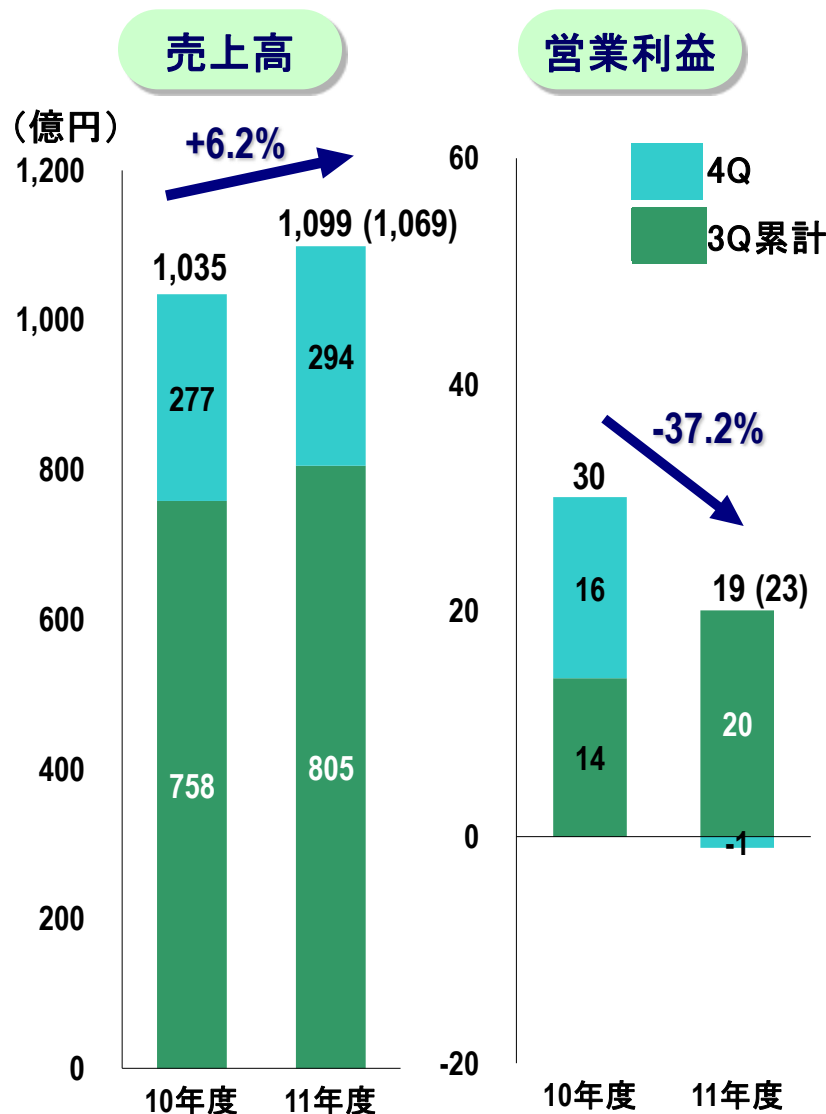
- パラアラミド繊維：各分野において需要堅調
- メタアラミド繊維：防護衣料は堅調、産業用途の一部は調整局面に
- 為替換算影響拡大：円高／ユーロ安

◇ 炭素繊維・複合材料：

- 航空機用途：好調継続
- 一般産業用途/スポーツ・レジャー用途：年度後半、アジア顧客の生産減等の影響により、軟調な展開
- 熱可塑性CFRPの事業化に向けて開発を推進中

* ()内 決算期統一影響除き

② ポリエステル繊維事業：増収・減益



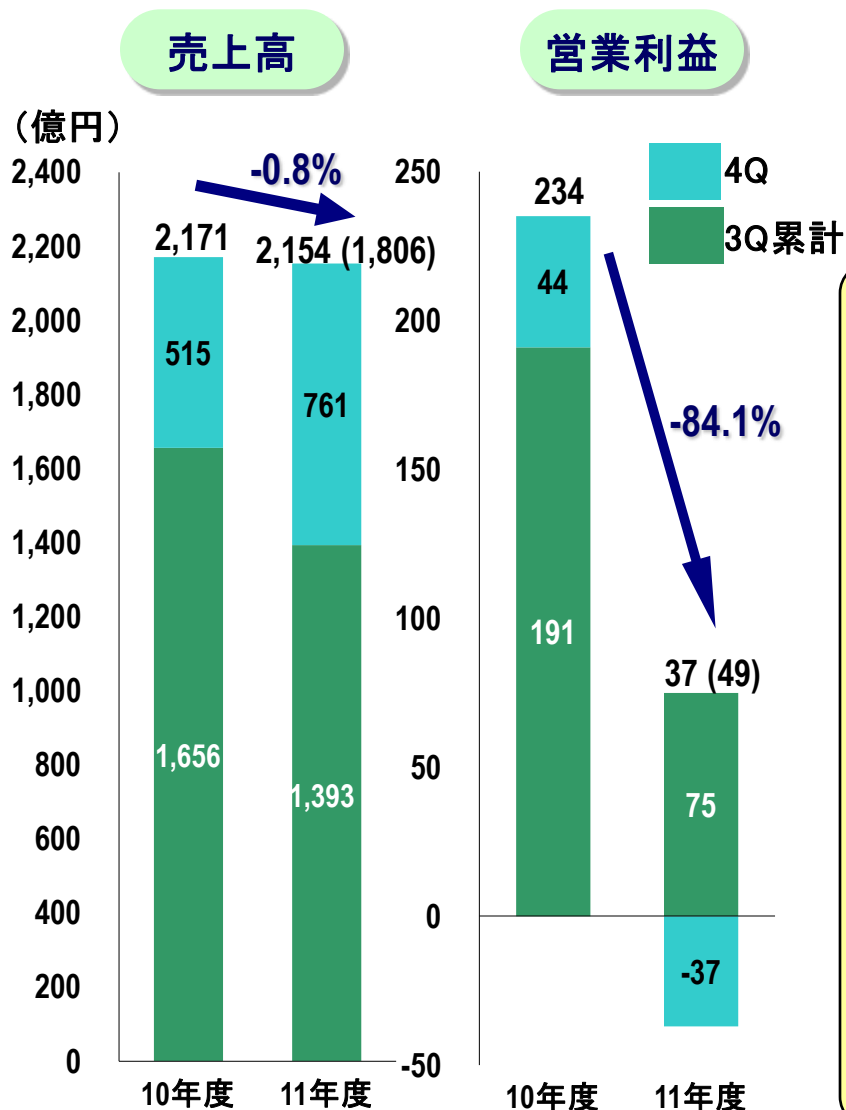
(億円)	10年度	11年度	差異	増減率
売上高	1,035	1,099	+64	+6.2%
営業利益	30	19	-11	-37.2%

◆ 事業概況・実施アクション

◇ ポリエステル繊維：

- 年前半は構造改革の効果により、好調に推移
 - 震災により低迷した自動車向け需要は夏場以降回復
 - 節電需要(ネッククーラー等)、復興需要(土木資材関連、漁網等)を取り込み
 - タイ洪水被害により連結子会社3社*が操業停止
⇒代替生産に伴うコスト増等で減益も、2月より一部工程で生産再開、復旧作業進捗中
- * テイジン・ポリエステル(タイランド)社
 テイジン(タイランド)社
 テイジン・コード(タイランド)社

③ 化成品事業：実質大幅減収、大幅減益



(億円)	10年度	11年度	差異	増減率
売上高	2,171	2,154	-17	-0.8%
営業利益	234	37	-197	-84.1%

◆ 事業概況・実施アクション

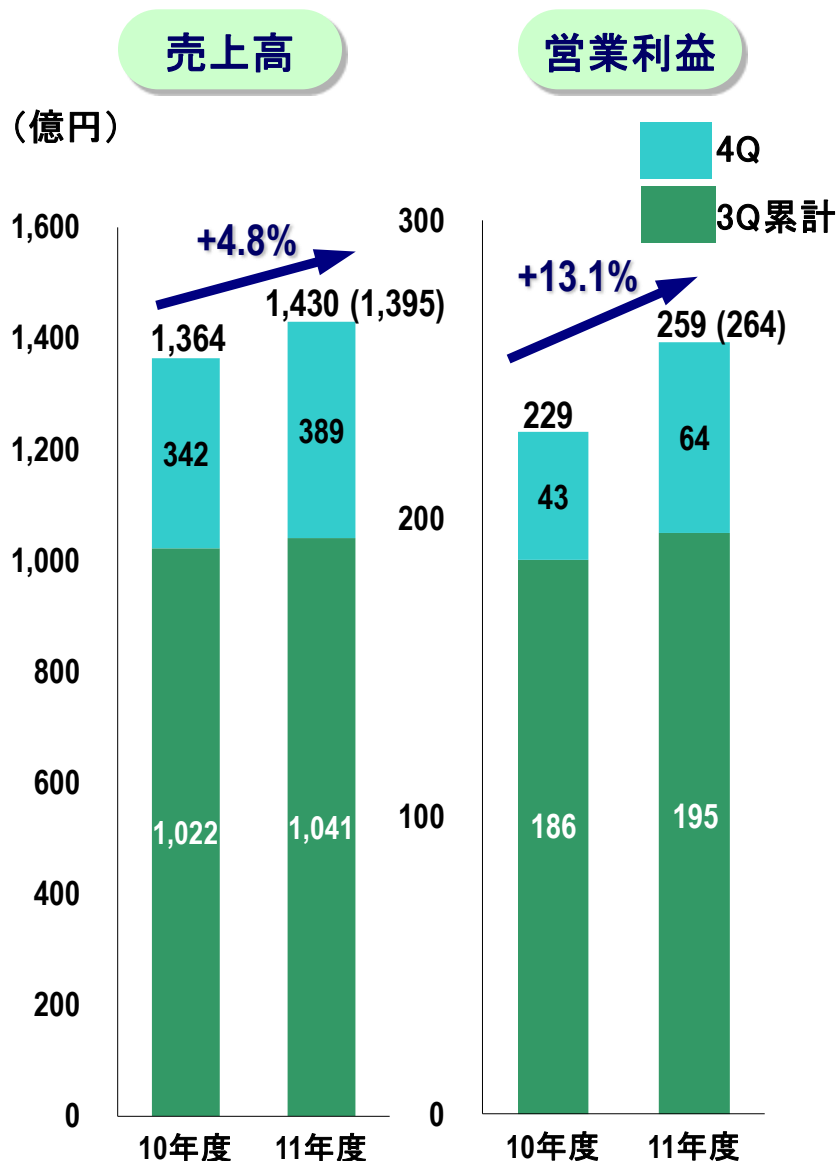
◇ 樹脂：

- PC樹脂：
 - ・震災・タイ水害によるサプライチェーン混乱に加え世界的に電気・電子分野の市場が低迷
 - ・市況は1月に入り中国を中心に回復基調
 - ・年明け以降原料価格は上昇、採算改善に向け価格改定交渉中

◇ フィルム：

- LCDバックライト用反射板用途：
 - ・パネルメーカー減産に伴い需要軟化、販売は低調に推移
- 太陽電池用途：
 - ・欧州各国の財政悪化による助成金減額影響等により販売が急減

④ 医薬医療事業：増収・増益



(億円)	10年度	11年度	差異	増減率
売上高	1,364	1,430	+66	+4.8%
営業利益	229	259	+30	+13.1%

◆ 事業概況・実施アクション

◇ 医薬品:

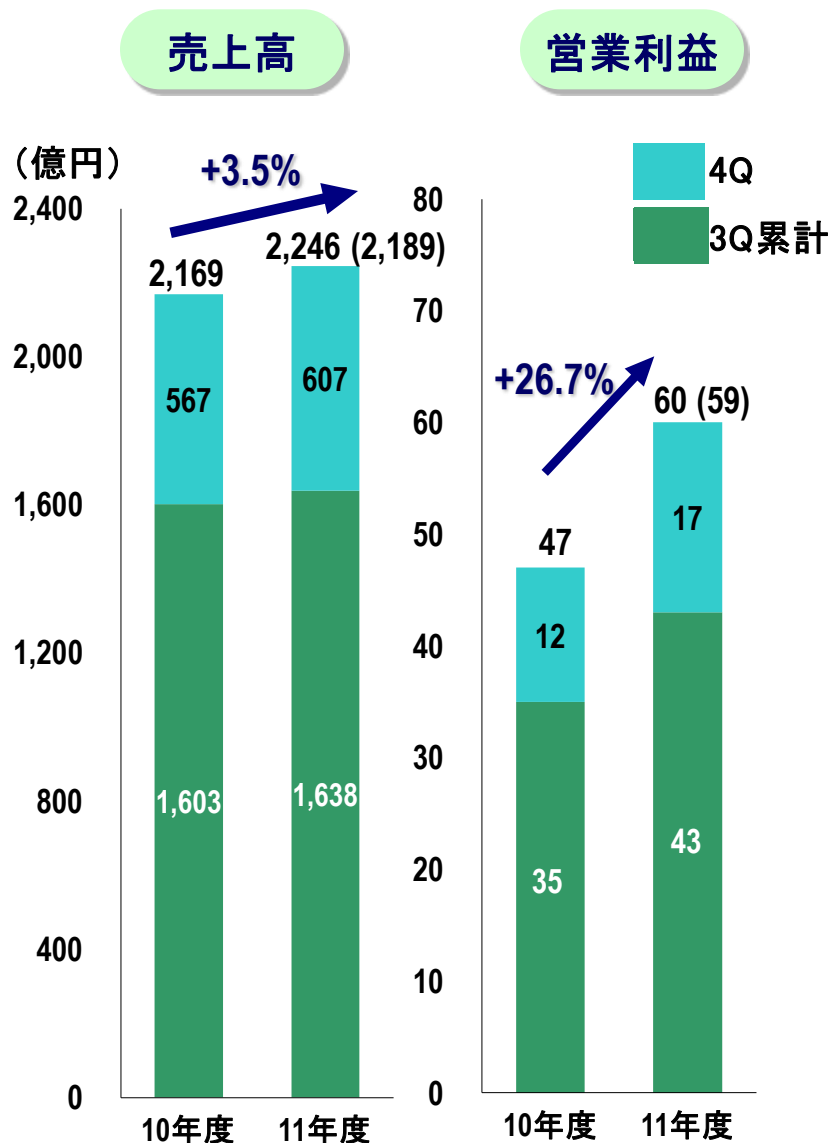
- 高尿酸血症治療剤「フェブリク錠」: 国内での販売を開始、順次拡大
- 骨粗鬆症治療剤「ボナロン」: 日本初となる点滴静注型の製造販売承認を取得
- 海外展開: 米欧を中心に高尿酸血症治療剤が順調に拡大
 - ・韓国販売開始(7月)、台湾・香港でも承認取得
 - ・中南米・中東・北アフリカ・インド・東南アジア・オセアニア等でも販売独占契約を順次締結

◇ 在宅医療:

- HOT: 高水準のレンタル台数伸長
- CPAP: 順調にレンタル台数伸長

* ()内 決算期統一影響除き

⑤ 流通・リテイル事業：増収・増益



(億円)	10年度	11年度	差異	増減率
売上高	2,169	2,246	+77	+3.5%
営業利益	47	60	+13	+26.7%

◆ 事業概況・実施アクション

◇ 流通・リテイル：

- 衣料繊維
 - ・国内外で積極的にアライアンス推進
アセアン生産拠点への設備投資、国内有力アパレルへの資本参加
 - ・スポーツ衣料 / 生活衣料及び首都圏販売好調
- 産業資材
 - ・自動車関連用途の回復持続
 - ・震災復興需要(土木資材等)、節電需要(テント、熱線反射・断熱フィルム等)を受け堅調

* ()内 決算期統一影響除き

◆ セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

(億円)		10年度実績					11年度実績					
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	決算期 統一	年間
売上高	高機能繊維	256	265	247	266	1,034	269	275	257	242	165	1,207
	ポリエステル繊維	247	262	249	277	1,035	238	302	266	264	30	1,099
	化成品	518	591	548	515	2,171	469	461	463	414	347	2,154
	医薬医療	337	328	357	342	1,364	349	331	361	354	35	1,430
	流通・リテイル	487	535	581	567	2,169	482	572	585	551	56	2,246
	計	1,845	1,980	1,982	1,966	7,773	1,806	1,941	1,931	1,825	633	8,136
	その他	81	93	80	129	383	90	99	88	130	0	408
合計	1,926	2,073	2,063	2,095	8,157	1,896	2,040	2,019	1,956	633	8,544	
営業利益	高機能繊維	0	11	12	21	44	20	22	12	-0	9	63
	ポリエステル繊維	0	-0	14	16	30	5	15	0	2	-4	19
	化成品	36	73	81	44	234	32	26	17	-25	-12	37
	医薬医療	69	49	68	43	229	72	47	76	69	-5	259
	流通・リテイル	7	12	16	12	47	10	13	20	16	1	60
	計	113	146	192	136	585	139	123	125	62	-11	439
	その他	-1	10	2	20	31	3	8	4	20	-2	33
	消去又は全社	-31	-31	-35	-34	-131	-32	-35	-31	-33	0	-131
合計	81	124	159	122	486	110	96	97	49	-13	340	

(億円)		前回見通し*					実績				
		上期	下期	計	決算期 統一	年間	上期	下期	計	決算期 統一	年間
売上高	高機能繊維	544	506	1,050	150	1,200	544	499	1,043	165	1,207
	ポリエステル繊維	539	511	1,050	50	1,100	539	530	1,069	30	1,099
	化成品	930	870	1,800	300	2,100	930	877	1,806	347	2,154
	医薬医療	680	720	1,400	50	1,450	680	715	1,395	35	1,430
	流通・リテイル	1,054	1,146	2,200	50	2,250	1,054	1,136	2,189	56	2,246
	計	3,747	3,753	7,500	600	8,100	3,747	3,756	7,503	633	8,136
	その他	189	211	400	0	400	189	218	407	0	408
合計		3,936	3,964	7,900	600	8,500	3,936	3,975	7,910	633	8,544
営業利益	高機能繊維	42	18	60	10	70	42	12	54	9	63
	ポリエステル繊維	20	0	20	0	20	20	3	23	-4	19
	化成品	57	-7	50	0	50	57	-8	49	-12	37
	医薬医療	119	151	270	0	270	119	145	264	-5	259
	流通・リテイル	24	26	50	0	50	24	36	59	1	60
	計	262	188	450	10	460	262	187	450	-11	439
	その他	11	19	30	0	30	11	24	35	-2	33
消去又は全社	-67	-73	-140	0	-140	-67	-65	-131	0	-131	
合計		207	133	340	10	350	207	146	353	-13	340

* 前回見通しは2012年2月3日に公表

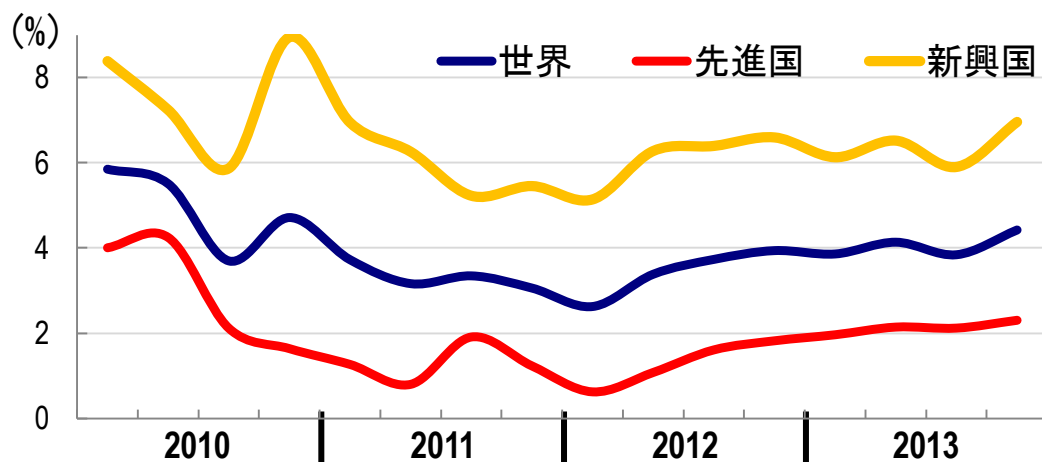
2013年3月期 業績見通し

(1) 環境見通し

世界経済は、2012年度後半に向けて徐々に回復

(%)

GDP成長率(IMF予測)



	2010	2011	2012	2013
世界	5.2	3.8	3.5	4.1
日本	4.4	△0.9	2.0	1.7
米国	3.0	1.8	2.1	2.4
中国	10.4	9.2	8.2	8.8
欧州	1.9	1.6	△0.3	0.9

* 2012.4 見通し改定

【自動車】 グローバル販売は拡大基調(前年比6%程度)

[7,500万台強(2011) ⇒ 8,000~8,300万台(2012)] 出典;各所予想値より当社推定

中国での高い伸び ~ 内需拡大の奨励、国民所得の増加が自動車消費を促進

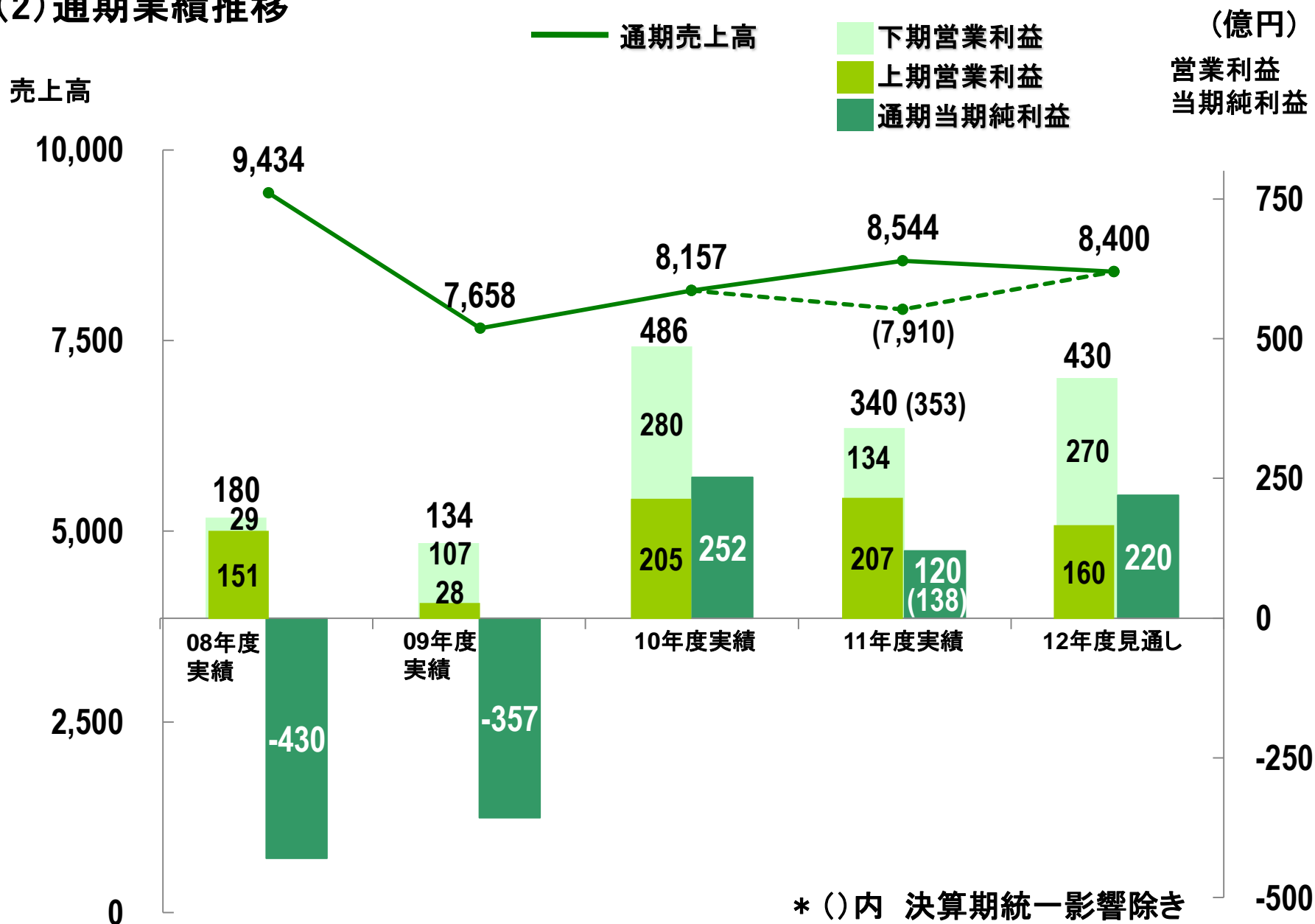
国内需要回復 ~ 自動車重量税の一部軽減、エコカー減税・補助金等による需要喚起

【電子情報産業】 世界生産額は増加(前年比5%程度)

[205兆円(2011) ⇒ 215兆円(2012)] 出典;電子情報技術産業協会

スマートフォン・電子タブレット端末の市場拡大 ~ 電子部品や半導体、ディスプレイデバイスなどへの波及効果期待

(2) 通期業績推移



(3) 通期業績見通しの概況

(億円)	11年度 実績	12年度 見通し	差異	
			金額	%
売上高	8,544 (7,910)	8,400	-144 (+490)	-1.7% (+6.2%)
営業利益	340 (353)	430	+90 (+77)	+26.3% (+21.8%)
<営業利益率>	4.0% (4.5%)	5.1%	—	+1.1% (+0.7%)
経常利益	343 (359)	430	+87 (+71)	+25.4% (+19.9%)
当期純利益	120 (138)	220	+100 (+82)	+83.7% (+59.5%)

EBITDA *1	863	930	+67
設備投資*2	323	550	+227
減価償却費	523	500	-23
研究開発費	318	350	+32
FCF	185	200	+15

* ()内 決算期統一影響除き

■ 2012年度見通し前提

通期為替レート 米ドル = 80円
ユーロ = 110円

原油価格(Dubai) = 110米ドル/バレル

2011年度及び2012年度配当予想

(円/株)	11年度	12年度 見通し	差異
中間配当	3.0	3.0	—
期末配当	3.0	3.0	—
年間配当	6.0	6.0	—

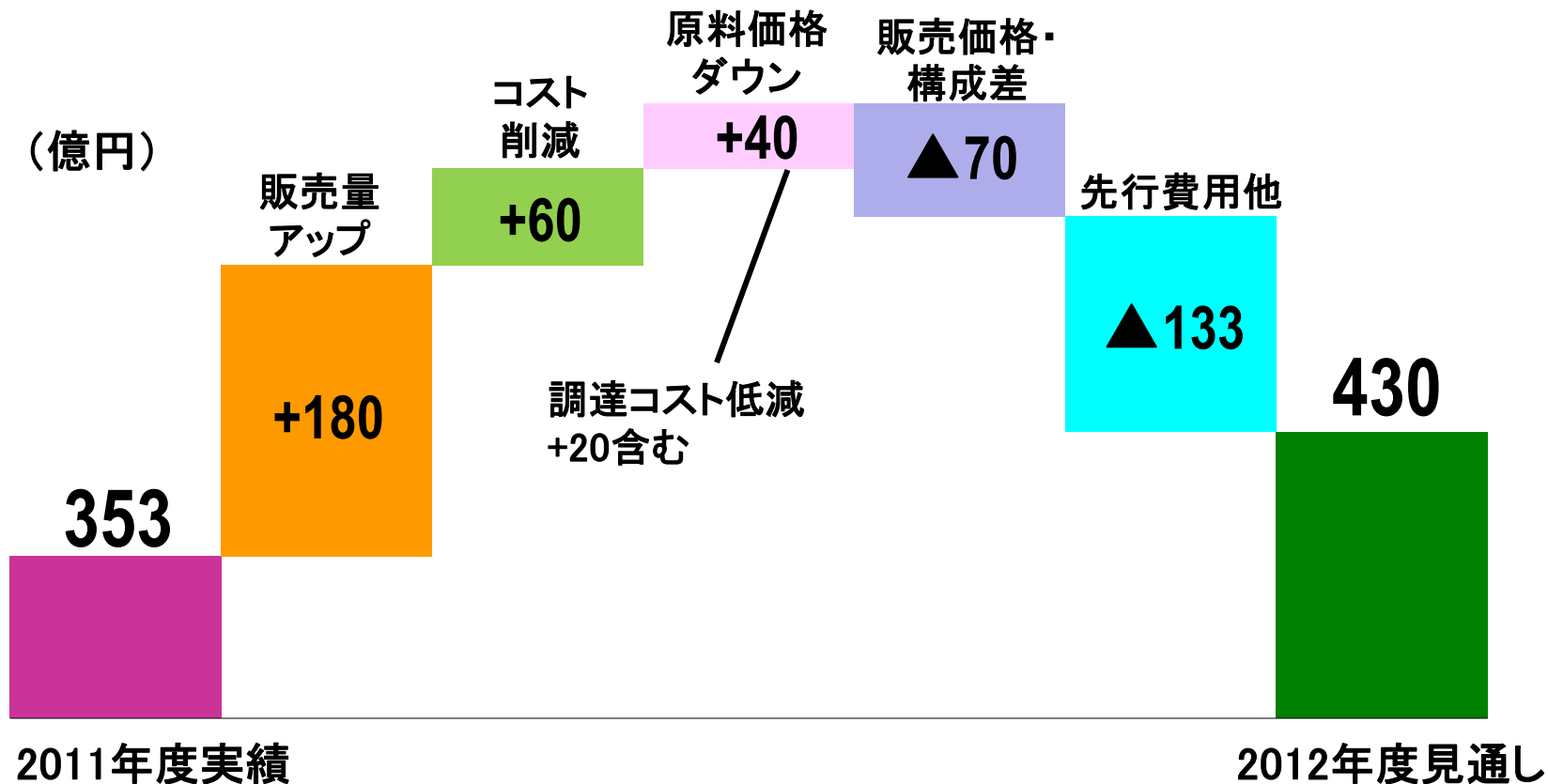
(億円)	12年 3月末	13年 3月末	差異
総資産	7,621	7,900	+279
(在庫)	(1,090)	(1,100)	+10
有利子負債	2,610	2,500	-110

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出

*2: 設備投資には無形固定資産を含む

(4) 2012年度営業利益見通し増減内訳

- 重点戦略事業(ヘルスケア/高機能繊維・複合材料)を中心に販売を拡大
- 電子材料・化成品事業はエレクトロニクス・自動車業界需要の緩やかな回復基調を見込むが、一方で価格圧力の増大を想定
- 徹底的なコストダウンを継続して推進



* 決算期統一影響を除いたベース

(5)開示セグメントの変更

2012年4月の事業グループ再編に伴い、事業セグメントの変更を実施

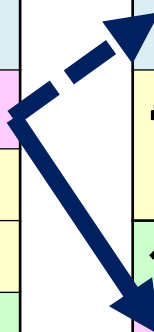
- ・「ポリエステル繊維(アパレル)」「流通・リテイル」⇒「製品」として統合
- ・「ポリエステル繊維(産業資材)」⇒「高機能繊維・複合材料」へ統合
- ・「原料・重合」⇒「その他」に編入

変更前(～2012/3月末)

開示セグメント	事業グループ
高機能繊維	アラミド繊維
	炭素繊維・複合材料
ポリエステル繊維	ポリエステル繊維
化成品	樹脂
	フィルム
医薬医療	医薬医療
流通・リテイル	流通・製品
その他	IT
	その他事業

変更後(2012/4月～)

開示セグメント	事業グループ・本部
高機能繊維 ・複合材料	高機能繊維
	炭素繊維・複合材料
電子材料 ・化成品	樹脂
	フィルム
ヘルスケア	ヘルスケア
製品	ポリエステル繊維(アパレル)
	流通・製品
その他	IT
	その他事業



(6)-1セグメント別 売上高・営業利益推移

(億円)		2011年度		2012年度			年間差異 (決算期統一 影響除き対比)
		決算期統一 影響除き	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	1,358	1,532	700	750	1,450	+92
	電子材料・化成品	1,806	2,154	950	1,000	1,950	+144
	ヘルスケア	1,395	1,430	700	800	1,500	+105
	製品	2,550	2,627	1,250	1,350	2,600	+50
	計	7,110	7,743	3,600	3,900	7,500	+390
	その他	801	801	400	500	900	+99
	合計	7,910	8,544	4,000	4,400	8,400	+490
営業利益	高機能繊維・複合材料	66	72	50	60	110	+44
	電子材料・化成品	49	37	30	50	80	+31
	ヘルスケア	264	259	120	160	280	+16
	製品	66	66	25	45	70	+4
	計	445	434	225	315	540	+95
	その他	37	37	15	30	45	+8
	消去又は全社	-130	-131	-80	-75	-155	-25
合計	353	340	160	270	430	+77	

注) 新セグメント別の2011年度実績については会計監査前の数値であり、変更の可能性があります。

(6)-2 事業別 環境見通しと対応アクション

事業	環境見通し	帝人G主要アクション
高機能繊維 ・複合材料	・全体需要は堅調な伸び	・新興国での販売拡大 ・生産性向上、コストダウン推進
【高機能繊維】 アラミド繊維ほか	・他社増設・後発参入等による 競合激化	・ボトルネック解消による生産能力増強 ・アジア・新興国での増設プラン検討 ・新規商品/用途開発推進
【炭素繊維 ・複合材料】	・航空機用途は金融危機前の 水準に回復 ・シェールガス拡大で、天然ガ ス用圧力容器の需要増	・航空機用途での採用拡大促進 ・圧力容器用途の販売拡大 ・熱可塑性CFRPの開発推進
電子材料・化成品	・市況は底打ち、徐々に回復	・市場回復に即応した生産体制
【樹脂】	・原料価格高止まり ・競合他社の旺盛な増設	・コンパウンド事業展開加速 ・日系顧客に加え、グローバルに販路拡大
【フィルム】	・LCDパネル在庫調整収束 ・太陽電池は調整局面が終息 し、年後半に向けて緩やかに 回復	・反射シートの高機能及び低コストタイプの 両面展開 ・太陽電池バックシート向け耐加水分解性 タイプの早期拡販

(6)-2 事業別 環境見通しと対応アクション

事業	環境見通し	帝人Gアクション
ヘルスケア		
【医薬品】	<ul style="list-style-type: none"> ・薬価改定 ・フェブリクの長期処方解禁 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェブリク国内拡販とグローバル展開推進 ・ボナロン剤形追加（注射剤、ゼリー剤）
【在宅医療】	<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬改定なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・CPAP拡販（ラボ増設、携帯電話網活用等） ・HOT ラインナップ拡充 （機能追加、小型軽量化、低コスト機開発）
製品	<ul style="list-style-type: none"> ・需要・供給ともアジアへのシフトが強まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織統合による市場対応力強化 ・中国開発拠点を通じた中国化繊協会、現地有力企業との連携強化
【ポリエステル繊維】		<ul style="list-style-type: none"> ・タイ子会社の洪水からの早期復旧
【流通・製品】		<ul style="list-style-type: none"> ・アセアン等海外OEM拠点での生産・加工機能強化

■ 痛風・高尿酸血症治療剤のグローバル展開

2009.3

北米で販売開始「Uloric」

2010.3～

欧州で販売開始「Adenuric」

仏・英・独をはじめとして現在 欧州15ヶ国で販売中

2011.5

日本国内で販売開始「フェブリク」

2011.7

韓国で販売開始「Feburic」

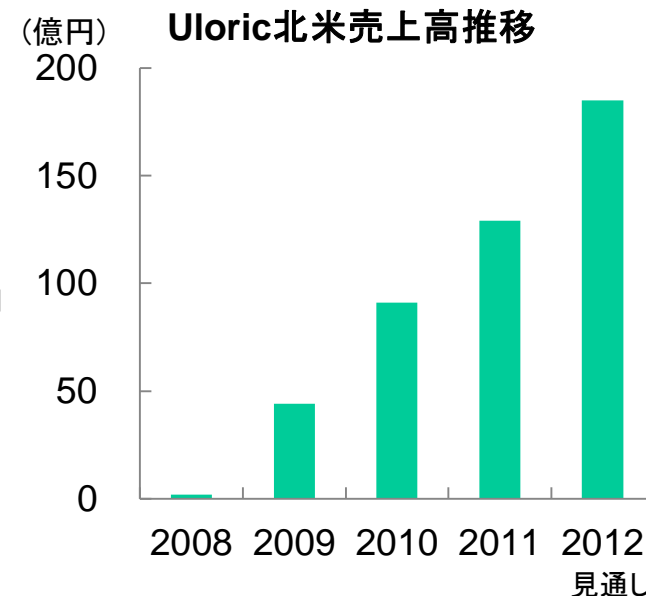
2012.4

国内「フェブリク」長期処方解禁

2012

台湾・香港・メキシコで販売開始予定

世界戦略商品としてのグローバル展開は着実に進行



中東・北アフリカ諸国・東南アジア諸国・インド・中南米・CIS及びオセアニア諸国でも独占販売契約を締結

⇒販売提携国は **117ヶ国** となり、世界の主要国・地域を網羅

■ 在宅医療事業の拡大

2011.4

新型CPAP導入(S9)

2012.4～

【CPAP】：**診療支援システム開発(ネムリンク)**

携帯電話網を活用したモニタリングシステム

スリープラボ*拡大

(*SAS精密検査・確定診断を行う診療機関)

SAS 循環器ガイドライン改定

⇒ **高血圧・心不全等 循環器科からの処方拡大**

【HOT】：**新機種投入(ハイサンソ3S)**

音声アナウンス+運転モニタリングシステム

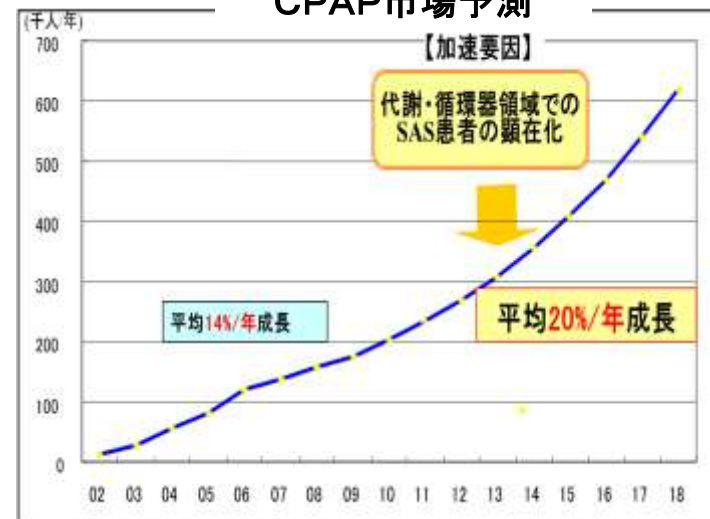
更なる新機種開発を推進

小型・軽量化、携帯化、低コスト機

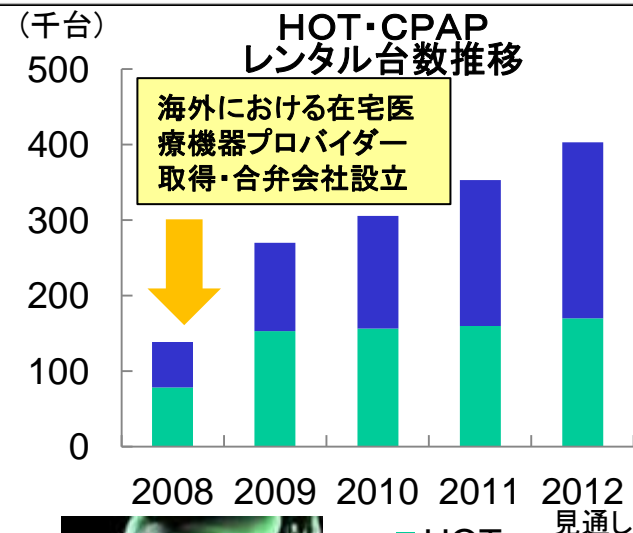
【リハビリ機器】：**脳卒中リハビリ機器事業への参入**

厚生労働省への承認申請

CPAP市場予測



HOT・CPAP レンタル台数推移



歩行神経筋電気刺激装置
ウォークエイド

■ アラミド繊維の拡大展開

2010 - 2012

デボトルネックによる能力増強（15%の能力アップ）

2011.10

高機能ポリエチレンテープ「Endumax」商業生産開始

防弾、防護、ロープ、ネット等に展開

2012 ~

・新規用途開発の推進：

【光ファイバー】トワロンテープ

超薄型テープ状 ⇒ ケーブルの耐圧性を3~5倍向上、
極細ケーブル(1.2mm)に対応
配線盤の容量増加・冷却コスト低減

【クレーンケーブル】

高強力・軽量、高耐候性 ⇒ アームの伸展距離・吊り上げ
可能重量を倍増

・アジア新興国での増設 検討推進：

市場成長に合わせたタイムリーな増設へ



■ 熱可塑性炭素繊維複合材料(CFRP)の事業展開

2011.3

熱可塑性CFRPを**タクトタイム1分以内**で
成形する量産技術を確立

2011.11

松山事業所に**パイロットプラント新設**を決定
(2012年 年央に稼働開始予定)

2011.12

**GM社と量産型自動車向け熱可塑性CFRP製品の
共同開発契約を締結**

2012.4

米国に「**複合材料用途開発センター**」開設
米国でのコンポジット製品のマーケティング及び
用途開発を展開

国内外メーカーとの取り組みを着実に推進



■ 革新的LIBセパレータの事業展開



2種類の革新的LIBセパレータの開発

- ・ **アラミド層のコーティング** ; **耐熱性・耐酸化性の飛躍的向上**

⇒ 大型用途(PC、自動車等)向け円筒型LIBの高容量化、安全性・長寿命を実現

- ・ **フッ素化合物のコーティング** ; **耐熱性・易接着性の飛躍的向上**

⇒ 小型用途(タブレットPC等)向けラミネート型LIBの高出力化、長寿命化を実現

ニーズに合わせたコーティング剤・製法の選択を可能に

2012.1

販売会社「**Teijin Electronics Korea Co., Ltd**」
韓国ソウルで営業開始



2012.6

セパレータのコーティング加工・生産を行う「**Teijin CNF Korea Co., Ltd***」
韓国牙山市で稼働開始を予定
*韓国CNF社との合併

- ・ 複数の大手電池メーカーによる認定取得済
- ・ 韓国での本格生産を進め、次世代LIB仕様としてのデファクトスタンダード化を図る



■ プリントブルエレクトロニクス 開発推進

- 導電性のインクを直接基材に印刷して電子回路を製造する次世代技術
- 半導体 / 薄膜トランジスタ / 太陽電池部材をターゲットとして市場展開
- 上記デバイスの製造プロセスを大幅に短縮 【一例(半導体)】 9 ⇒ 3工程
 - ・製造コストを大幅削減 : 【一例(半導体)】 設備投資:約1/6、材料費:約1/2
 - ・環境配慮設計 : 使用薬品削減(エッチング液不要)

2009～

シリコンナノ粒子膜 製膜技術 確立

2010.7～

ナノ粒子製造技術 獲得 (米ナノグラム社)

2011～

・米 パロアルト研究所との共同開発を開始

次世代ディスプレイ材料として大きな成長が見込まれる有機ELを、Siインクを用いたトランジスターで発光させる技術の共同開発

⇒ トランジスターの製造プロセス簡略化を通じたコストダウンの実現を目指す



(7) 主要経営指標

	08年度 実績	09年度 実績	10年度 実績	11年度 実績	12年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	1.9%	1.6%	6.1%	4.5%	5.5%
ROE：当期利益／自己資本 *1	-12.3%	-12.4%	9.1%	4.2%	7.4%
売上高営業利益率	1.9%	1.8%	6.0%	4.0%	5.1%
D/Eレシオ *2	1.18	1.18	0.94	0.89	0.8
自己資本比率	35.0%	33.0%	37.3%	38.3%	38%
1株当たり当期純利益(円)	-43.7	-36.3	25.6	12.2	22.4
1株当たり配当金(円)	5.0	2.0	5.0	6.0	6.0
総資産(億円)	8,742	8,231	7,615	7,621	7,900
有利子負債(億円)	3,613	3,203	2,674	2,610	2,500
EBITDA(億円) *3	853	753	1,050	863	930

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

見直しに関する注意事項と事業等のリスク

見直しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかもの

ヘルスケア事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2012年5月9日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆ 連結貸借対照表

	(億円)	10年 6月末	10年 9月末	10年 12月末	11年 3月末	11年 6月末	11年 9月末	11年 12月末	12年 3月末
資産 合計		8,055	7,767	7,919	7,615	7,820	7,845	7,758	7,621
流動資産		3,315	3,264	3,450	3,369	3,583	3,694	3,756	3,618
固定資産		4,741	4,503	4,469	4,246	4,238	4,151	4,002	4,003
負債・純資産 合計		8,055	7,767	7,919	7,615	7,820	7,845	7,758	7,621
負債		5,098	4,825	4,863	4,538	4,683	4,742	4,697	4,499
(内 有利子負債)		3,299	3,059	2,932	2,674	2,846	2,880	2,850	2,610
純資産		2,957	2,943	3,056	3,077	3,138	3,103	3,060	3,122

* 詳細については決算短信をご覧ください

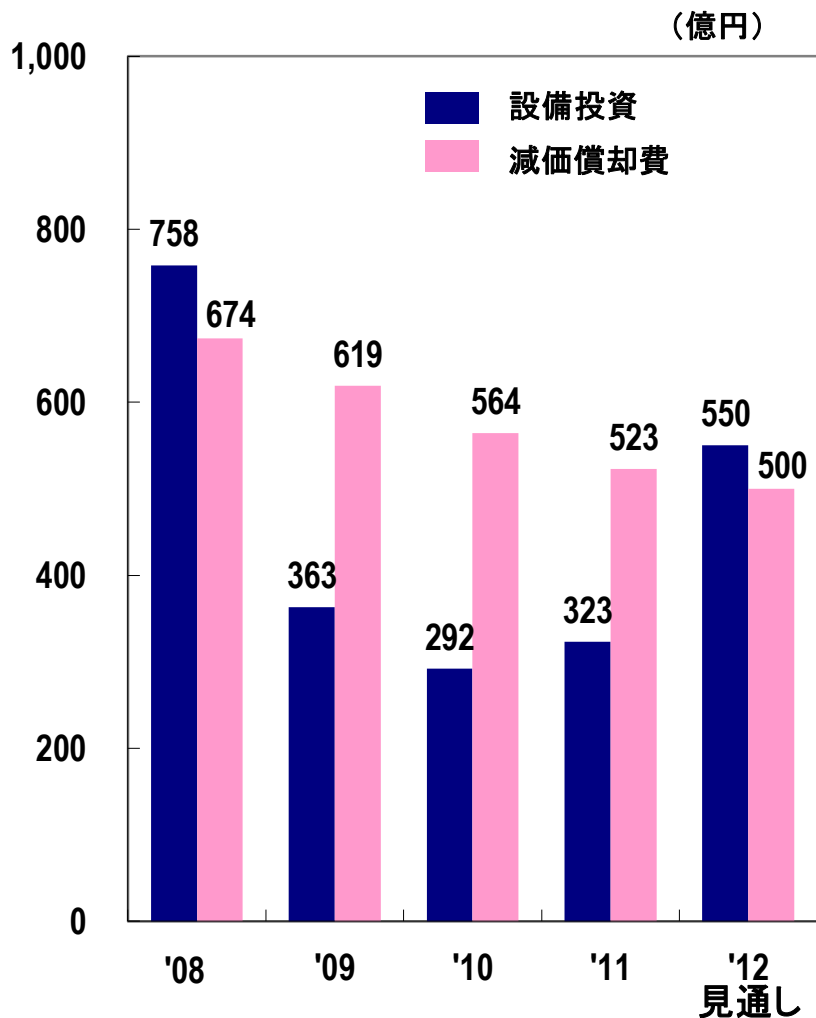
◆ 連結損益計算書

(億円)	10年度				11年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,926	2,073	2,063	2,095	1,896	2,040	2,019	2,589
売上原価	1,406	1,495	1,454	1,508	1,339	1,479	1,478	1,996
売上総利益	520	578	608	587	557	561	541	593
販管費	440	454	449	466	447	465	444	557
営業利益	81	124	159	122	110	96	97	37
営業外損益	-3	3	10	8	18	-8	2	-9
（内 金融収支）	-6	-9	-7	-9	-4	-9	-7	-15
（内 持分法投資損益）	9	17	22	15	26	13	8	6
経常利益	78	127	169	129	128	89	99	27
特別損益	-11	-2	-5	-40	-1	-19	-18	-27
税前利益	67	125	164	89	127	70	81	0
法人税等	24	45	65	28	59	35	22	32
少数株主損益	2	5	15	9	5	6	-0	-0
当期純利益	40	75	85	52	63	29	59	-31

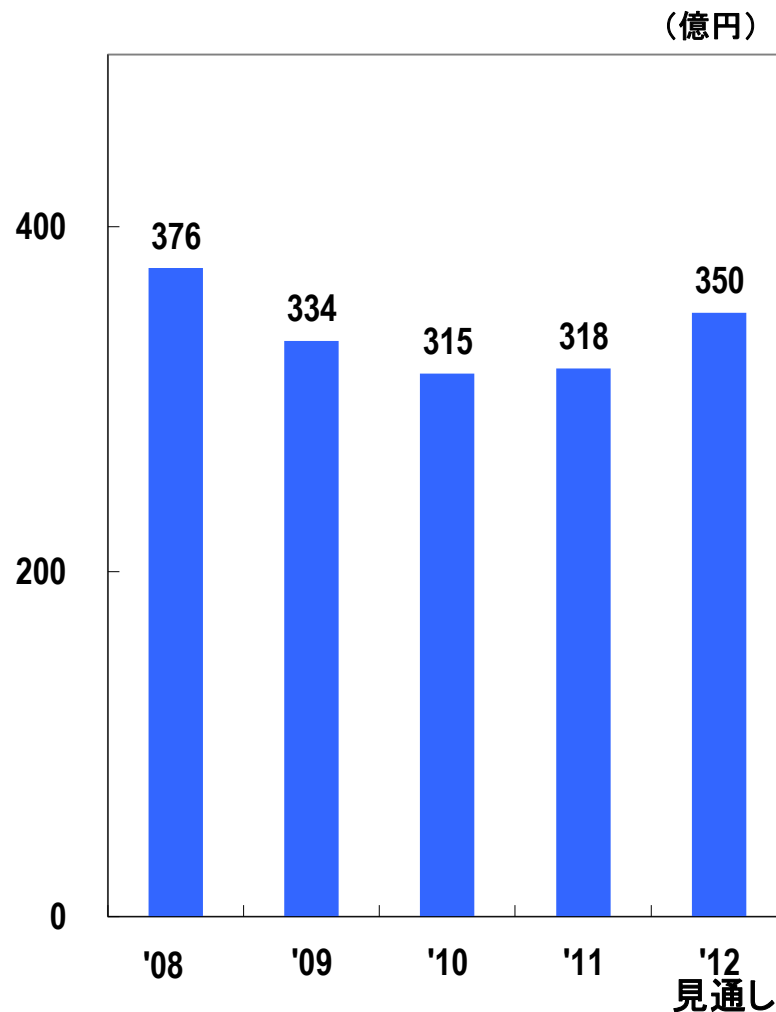
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費

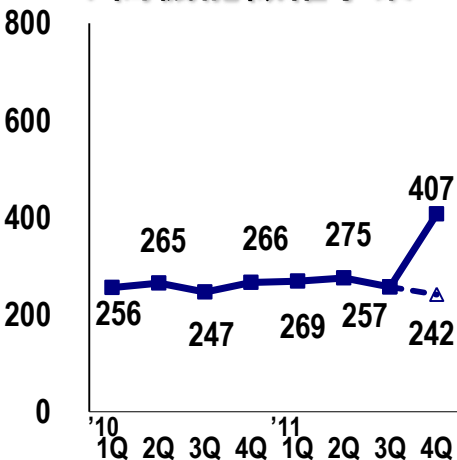


◆セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

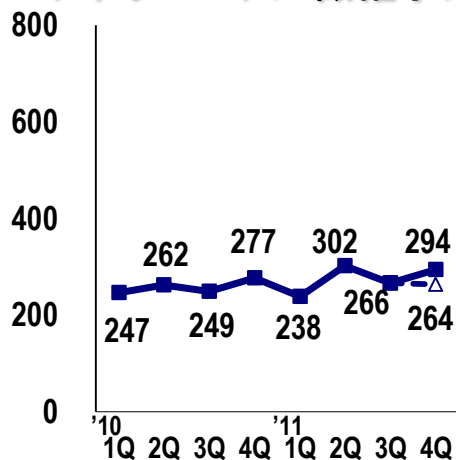
売上高

(億円)

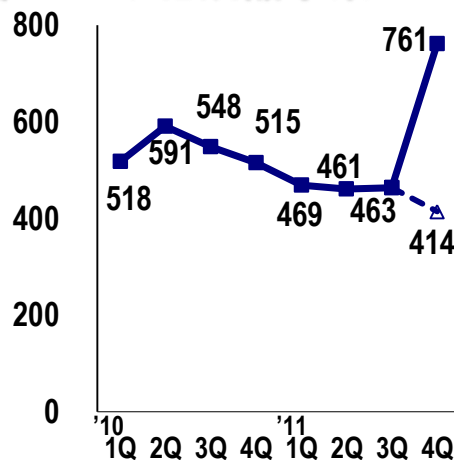
◆高機能繊維事業



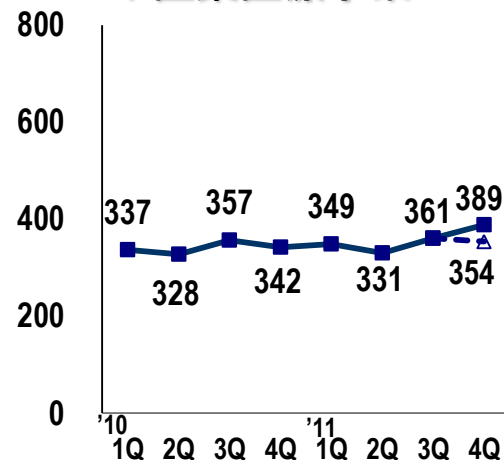
◆ポリエステル繊維事業



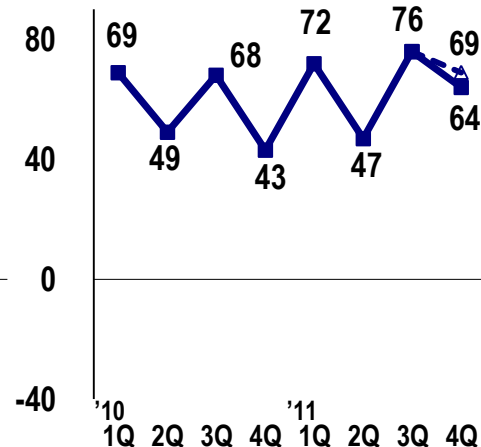
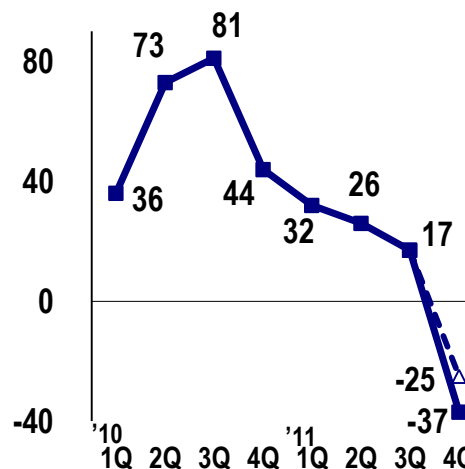
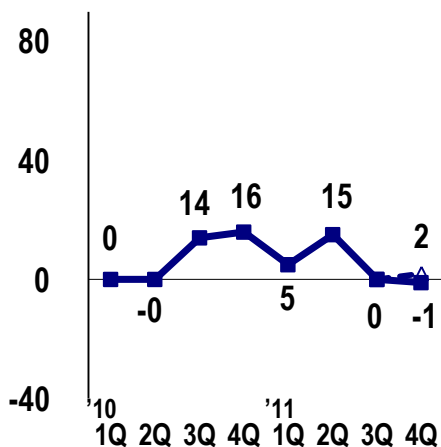
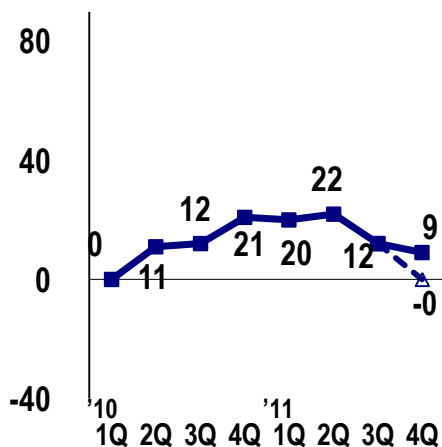
◆化成品事業



◆医薬医療事業

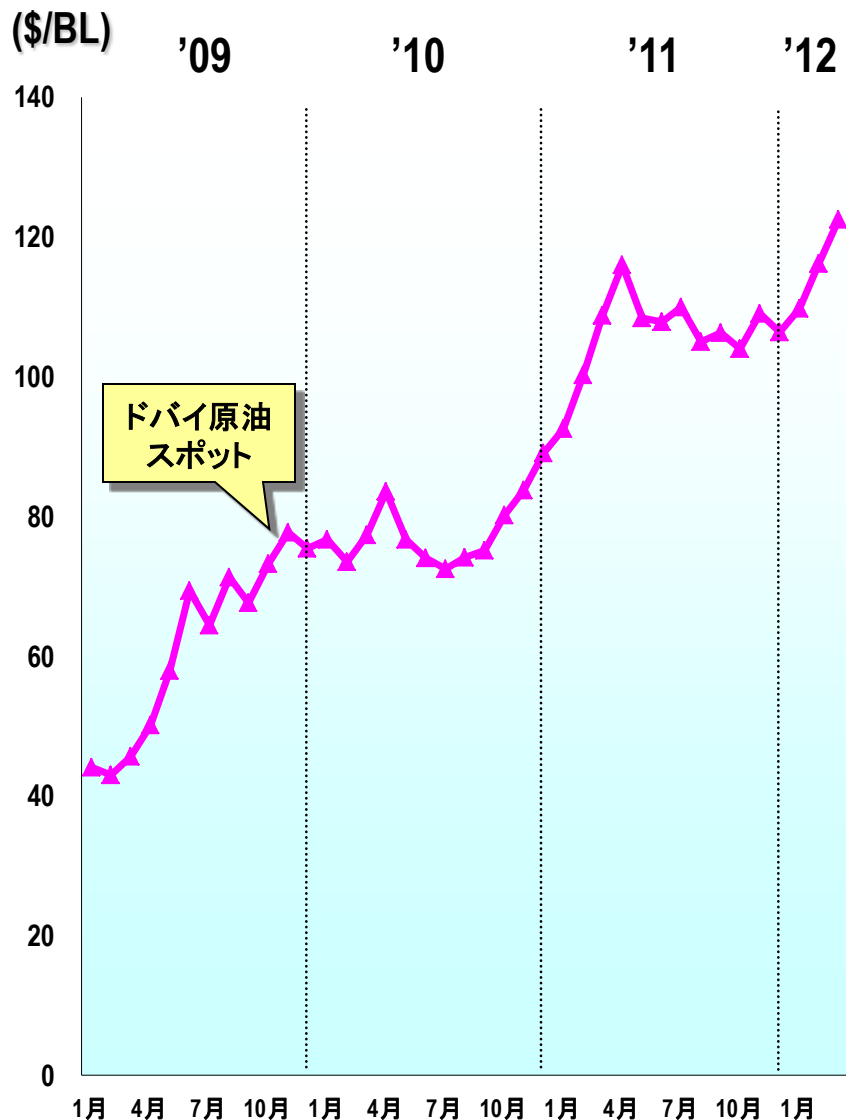


営業利益



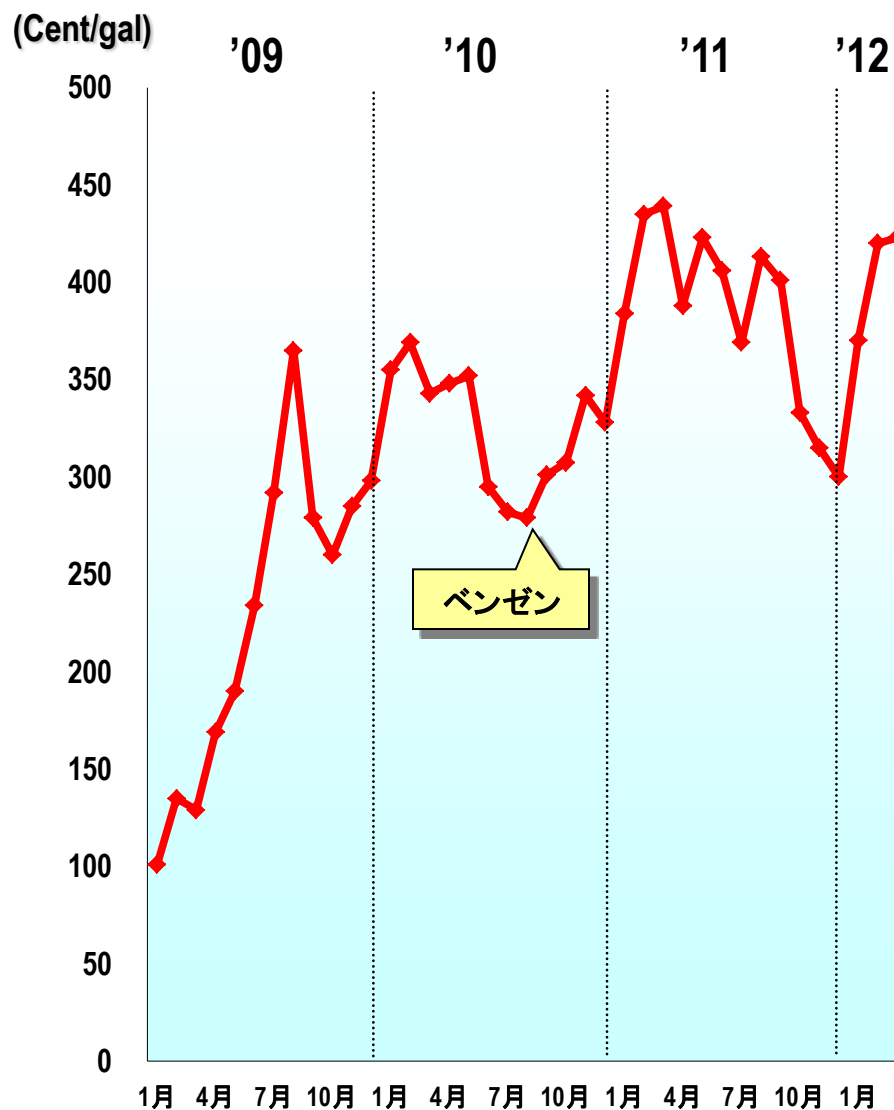
* △は決算期統一影響を除いた額 36

◆ドバイ原油価格推移



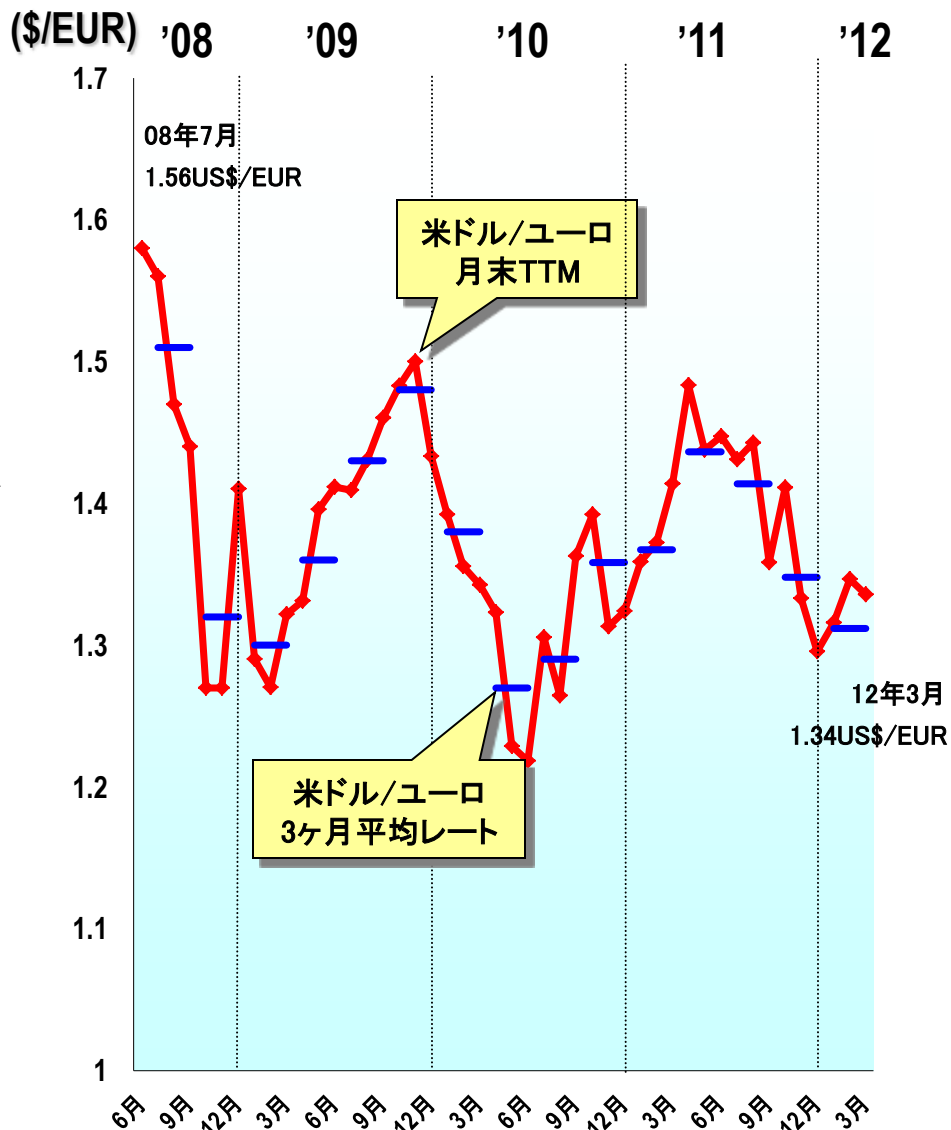
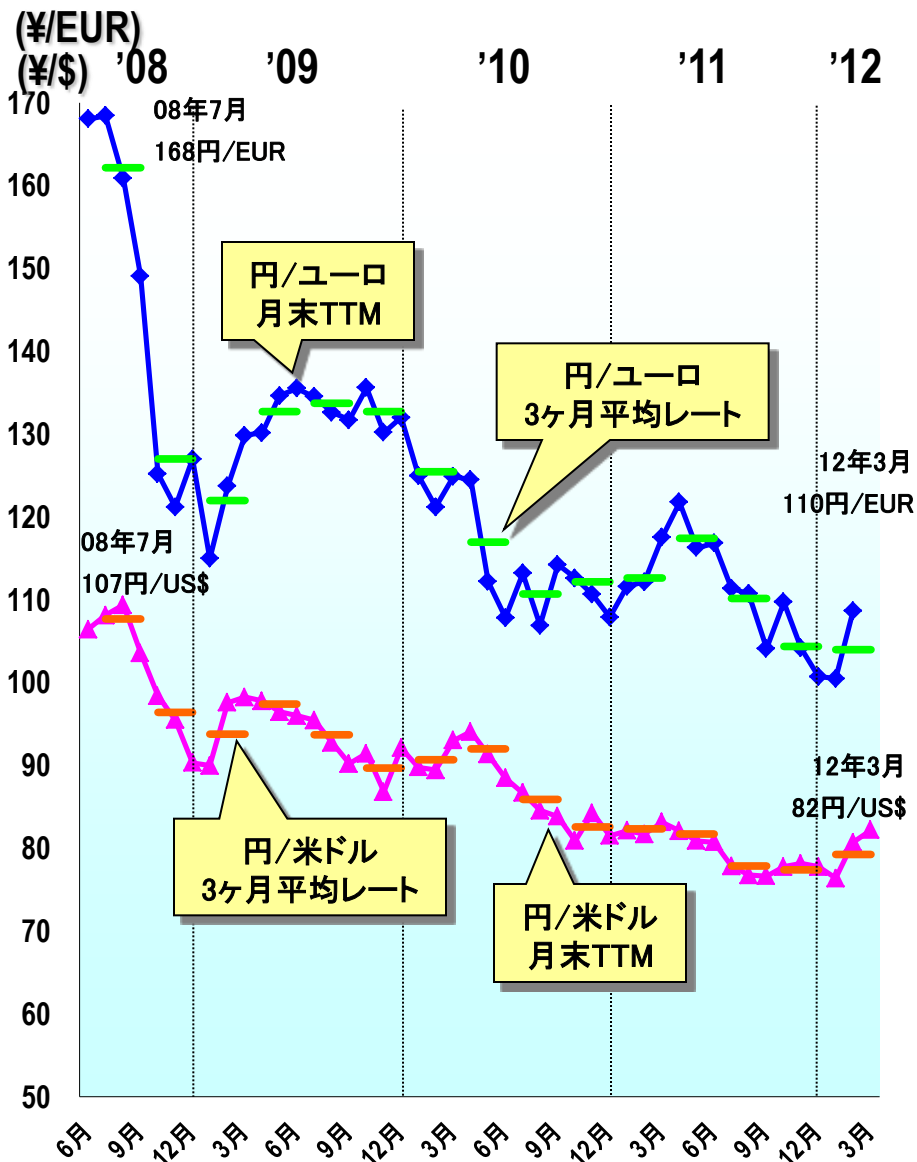
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ベンゼン価格推移

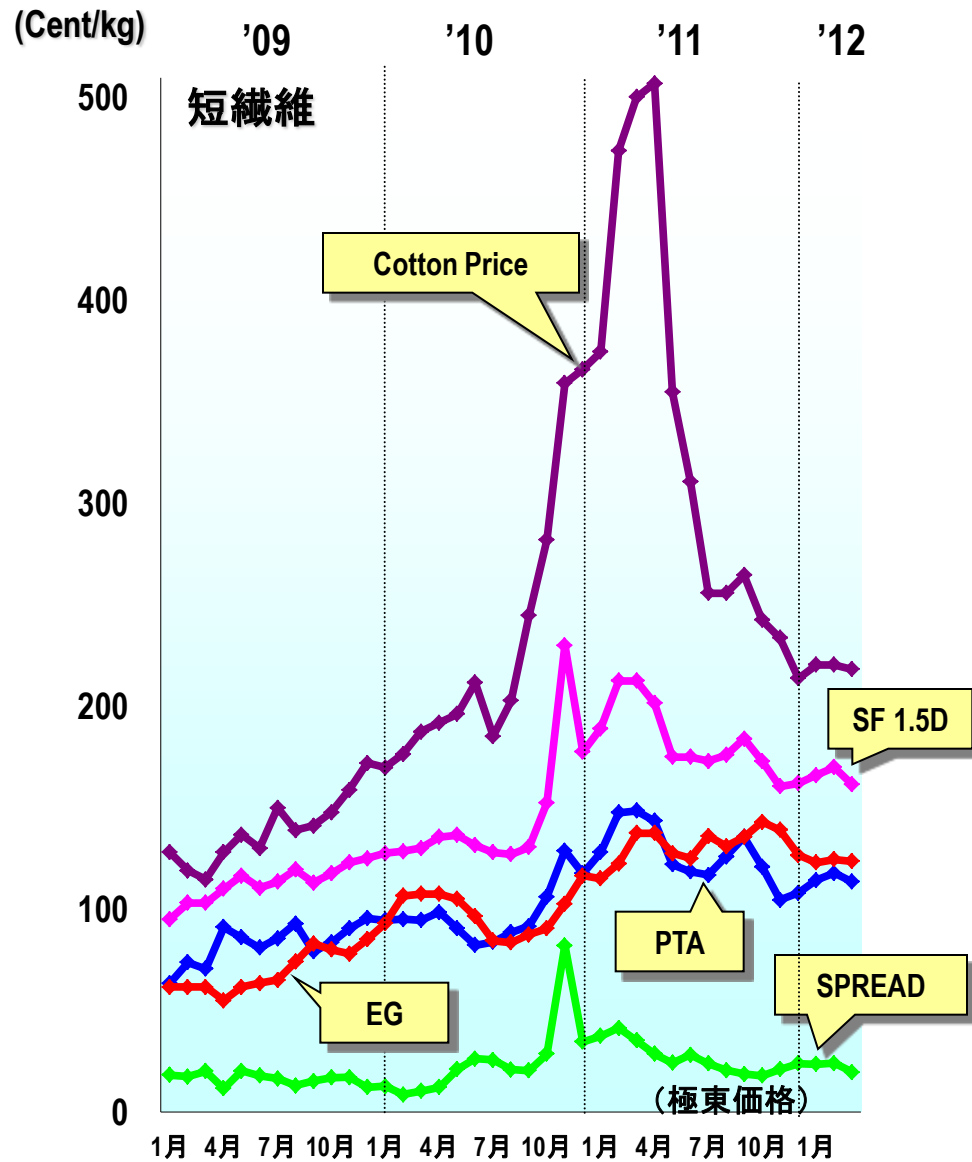
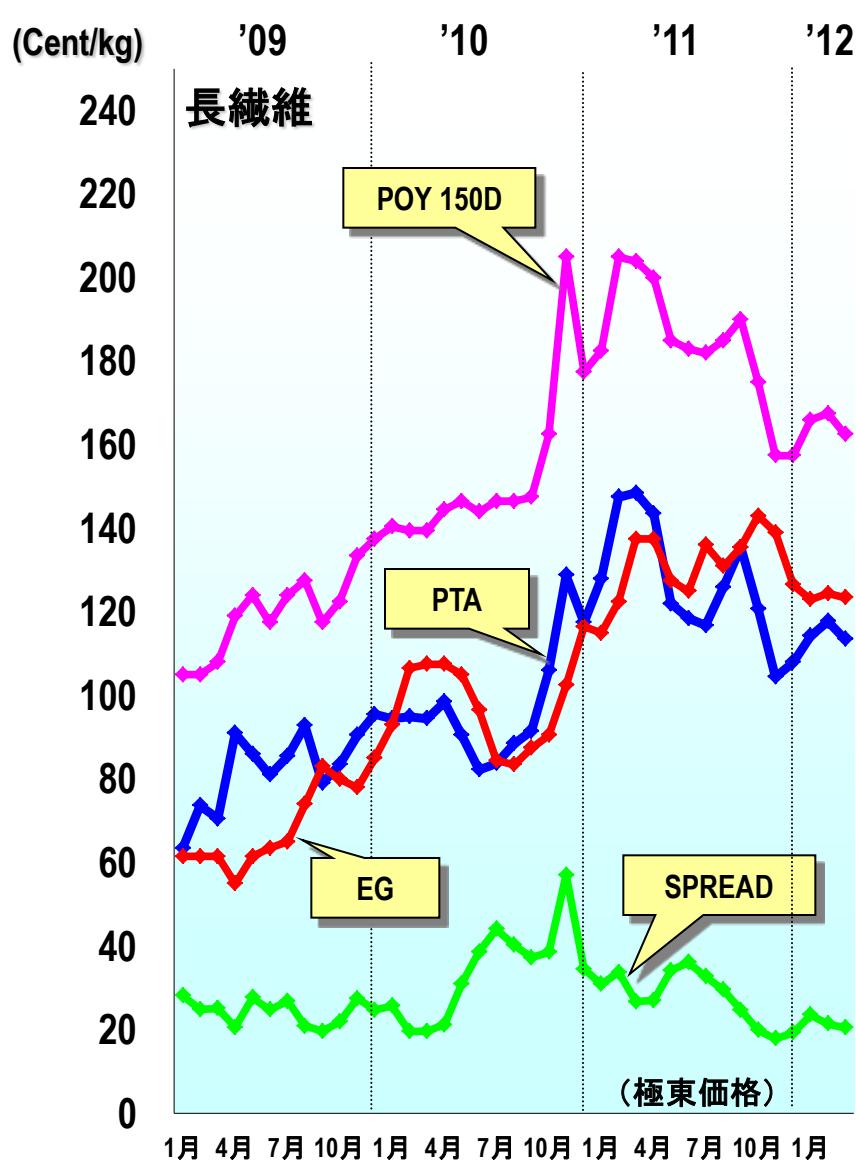


【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆円/米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆ポリエステル繊維売値・原料価格推移



【出所:PCIのDATAを基に弊社推定】

◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	適応症	10年度					11年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	52	52	58	48	210	52	52	54	47	205
ワンアルファ	骨粗鬆症治療剤	29	28	31	26	114	27	27	30	27	111
骨粗鬆症治療剤計		81	80	89	73	324	79	79	84	74	316
ムコソルバン	去痰剤	25	21	29	24	100	24	21	30	24	99
ベニロン	重症感染症治療剤	24	23	24	20	91	23	22	26	23	94
ラキソベロン	緩下剤	11	11	12	10	44	10	10	11	10	42
トライコア	高脂血症治療剤	4	4	4	5	18	3	4	6	2	15
ボンアルファ	角化症治療剤	4	4	5	3	16	3	3	4	3	14
オルベスコ	喘息治療剤	3	3	4	3	12	3	3	3	4	13
スピロペント	気管支拡張剤	3	2	3	2	10	2	2	3	2	10
サイビスクディスポ	変形性膝関節症の疼痛緩和剤	-	-	2	5	7	4	4	5	3	17
フェブリク	高尿酸血症治療剤	-	-	-	-	-	5	0	1	3	9

*ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆疾患分野別臨床開発段階（2012年3月末現在）

*承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域	ITM-058			GTH-42J *2 [ボナロン®]	GTH-42V *1 [ボナロン®]
呼吸器 領域	NA872ET *3 [ムコソルバン]				BTR-15K [オルベスコ] (適応追加:小児)
代謝・ 循環器領域		ITM-077 NTC-801		ITM-014 *4	TMX-67 [フェブリク]
その他		GGs *5 [ベニロン] (適応追加: 顕微鏡的多発血 管炎)		TV-02H [ボンアルファ ハイ軟膏] (中国)	

*1 GTH-42Vは2011年2月に承認申請、2012年1月に製造販売承認を取得、*2 GTH-42Jは2011年8月に承認申請、

*3 NA872ETは2011年9月にPhase I 開始、*4 ITM-014は2011年9月に承認申請、

*5 GGS(ベニロン)は2011年7月に顕微鏡的多発血管炎への適応拡大の臨床開発に着手

◆新規上市医薬品 (2012年3月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
フェブリク (フェブキソスタット)	高尿酸血症	プリン骨格を持たない新しい尿酸生成抑制剤。1日1回服薬で血清尿酸値を治療目標値まで低下させ、維持することが可能。 軽度・中等度の腎機能低下がある場合にも用量調節の必要がなく、多くの患者に使用できると期待される。	錠剤	自社品、2011年5月17日に国内販売開始
オルベスコ 小児用 (シクレソニド)	気管支喘息	既に発売している喘息治療用吸入ステロイド剤(オルベスコ)の小児適用。 小児気管支喘息に対して国内で初めての1日1回の用法。既存の吸入ステロイド剤と同等以上の効力を有し、全身性及び局所性副作用の低減が期待できる。	吸入	導入元:スイス ニコメッド社 2011年4月7日に国内販売開始

◆承認済医薬品 (2012年3月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GTH-42V (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)の注射剤。 経口剤を服用できない患者等への処方が可能となり、服薬コンプライアンスの改善や経口剤に比べて上部消化管障害の低減が期待される。	注射	導入:米メルク社 2012年1月承認取得

◆新規開発医薬品 (2012年3月末現在)

【申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TV-02H (タカルシトール水和物)	尋常性乾癬	国内販売しているボンアルファハイ軟膏20 μ g/gを中国に導出。既に中国で上市・販売している低濃度製剤(2 μ g/g)に加えることで、当該適応症における治療選択肢の幅を広げることができる。	軟膏	2010年9月低濃度製剤に対する補充申請(中国)
GTH-42J (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー製剤を目指す。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入:米メルク社 2011年8月承認申請
ITM-014 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症	先端巨大症における過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする製剤処方とプレフィルドシリンジの採用によって、現行の治療薬と比べて利便性とコンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入:仏イプセン社 2011年9月承認申請

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-077 (Taspoglutide)	2型糖尿病	血中グルコース濃度に依存したインスリン分泌促進作用による血糖コントロール薬。低血糖リスクが少なく、体重減少作用を有する。 週1回投与が可能であり、利便性に富む。そのほか、インスリンを分泌する膵臓ベータ細胞の保護および再生作用が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社
NTC-801	心房細動・粗動	心房選択的な心房細動・粗動の治療並びに予防薬。 既存薬の問題点である心室性副作用(不整脈誘発作用、心機能抑制作用)が無いことが期待される。	錠剤	共同開発: 日産化学工業
GG5 (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。 既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
NA872ET (アムプロキシール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アムプロキシール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入: 独ベーリンガー ・インゲルハイム社

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。